

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立南笠東小学校

教諭 岸本 靖英

1. 単元名 「 みんなにやさしい暮らし 」

2. 単元の目標

- 公共の施設やお店には、体にハンデがある人の立場になって考えられた工夫がたくさんあることを知る。 (知識・技能)
- 体にハンデがある人や高齢者など様々な人とコミュニケーションをとるための手法(点字、手話など)を学んだり考えたりして、試している。(思考・判断・表現力等)
- 様々な人(高齢者や体にハンデのある人)とコミュニケーションをとり、みんなが過ごしやすい「やさしい暮らし」について考え、自分にできることをやろうとする。(学びに向かう力・人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習に時間編「①横断的・総合的な課題」における、「身の回り的高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々」(福祉)を踏まえ、構想したものである。

自分たちが暮らす地域には、高齢者や体にハンデのある人が多く暮らしている。しかし、相手の生活や苦難など知らずに生活していることが多い。様々な人との交流を通して相手を知り、相手に合わせた交流の仕方を試行錯誤することで、自らの課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成を図る。

(2) 児童観

児童は、1学期「調べよう！おおかみ川の生き物 見つけよう！町の自然」で、自分たちが住んでいる地域の特徴を知り、愛着を持ち始めていた。南笠東学区には、たくさん自然があり、そこに住む生き物たちがいる。自然が豊かな状態を維持していくためには、人間の手が必要となる。例えば、公園の環境は、地域の手で守られているため、そこに集まる生き物たちも豊かに暮らしている。そうした、地域の人たちの手で自然が守られていることに気づいた児童はより自分の住む地域の愛着を高めていた。

2学期の「みんなにやさしい暮らし」の学習では、地域に住む人に目を向け、交流をすることで誰もがよりよく暮らしていくために何が大切なのかを考える。学校や身近な施設にある福祉の観点での工夫をきっかけに、「やさしい暮らし」とは何なのか、みんなとは誰のことを考えるのかなどを明確にし、自分たちができることを考える。

(3) 指導観

この単元学習を通して、自分たちの住む地域がよりよくなっていくことにつながることを意識させ取り組むようにする。明確なゴールを意識させることで、意欲をもって活動に参加できるようにする。また、手話体験や点字学習では、外部講師を招き、新たな知識や技能を獲得できるようにつなげていきたい。さらに、様々な人と積極的に話をしたり、自分たちに何ができるのか仲間と話し合ったり、コミュニケーション能力を高めるための時間を十分に確保できるようにする。

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 体にハンデのある人を支える道具や工夫があることを理解している。 ② 社会には、様々な人がいて、支えあって生活していることに気付いている。 ③ 体にハンデのある人の生活や思いに対する認識の高まりは、自分に住んでいる地域に対して、自分は何ができるのかを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① みんなが暮らしやすい地域とはどのような地域か、その方々のために自分たちができることは何かについて必要な情報を集め、種類に合わせて蓄積している。 ② 課題解決に向けて、困っていることや自分たちにできることなどの観点に合わせて情報を整理し考えている。 ③ 自分たちが考えた内容について、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	① みんなが安心して安全に暮らせる社会を作る担い手としてどんなことができるか自己の生活を見直し、進んで探究的な学習に取り組もうとしている。 ② 疑似体験や調べ学習を通して得た知識や友だちの考え、外部講師の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③ 地域との関わりの中で、自分のできることを見付けようとしている。

5. ESDとの関連

(1) 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・相互性：誰もが幸せに暮らしている。
- ・連携性：みんなで協力して行う。
- ・責任性：自分たちの日々の行動が大切である。

(2) 本学習を通じて育てたいESDの資質・能力

【コミュニケーションを行う力】

様々な立場の人と話をして気持ちを知ったり、自分たちに何ができるのかを仲

間と話し合ったりする。

【批判的に考える力】

今ある社会で誰もが幸せなくらしになっているのかを考え、様々な人の視点で物事を捉える。

【未来像を予測して計画を立てる力】

みんなが安心して安全に暮らせる社会を作る担い手として、どんなことができるのかを考える。

(3) 本学習で変容を促すESDの価値観

【世代間の公正】

体にハンデのある人のことを考えた施設の工夫を見つけ、他者の幸福につながる行動を考えたり、広げたりしていく。

【人権・文化を尊重する】

他者の視点で考えることが大切である。

【幸福感を大切にする】

他者に認められたり感謝されたりすることが、自分自身の幸せや自信につながる。

(4) 達成が期待されるSDGs

目標11：まちづくり

目標16：平和・公正

6. 単元の指導計画（全30時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	① 学校にある工夫(やさしさ)を知る。 ② 学校や地域にある工夫を調べる。 ③ 調べたことを交流する。	○今回の単元学習の「みんな」「やさしさ」の解釈を共通理解できるようにする。 ○学校の工夫の写真をいくつか用意する。	(ア) ① (イ) ①
2	① 公共交通機関(バス)の工夫やアイマスク体験、車イス体験をする。 ② バス以外の交通機関の工夫を調べ、交流する。 ③ 「学びのフェスティバル」で学習経過を報告する。	○滋賀県庁交通戦略課に依頼する。 ○「学びのフェスティバル」に向けてこれまでの学習の流れを児童とともにおさえ、発表に向けて準備する。	(ア) ② (イ) ② (ウ) ②

3	① 外部講師を招き、手話体験をする。 ② 外部講師を招き、点字学習をする。	○「手話」や「点字」を学ぶ目的を明らかにして、意欲を高める。 ○草津社会福祉協議会を通じて、外部講師を依頼する。	(イ) ① (ウ) ②
4	③ 地域の高齢者と交流する。 (100歳体操の体験) ④ 地域の高齢者の方からお話を聞く。	○地域コーディネーターと連携して地域の高齢者と打ち合わせを行う。 ○高齢者視点で「みんなにやさしい暮らし」を考えられるように支援する。	(ア) ② (イ) ①② (ウ) ②
5	① 「みんなにやさしい暮らし」を実現するには何が必要か、何が大切かを考える。 ② グループで自分たちができるところを考え、行動する。	○地域や家庭につなげていくような方法を児童と一緒に考えていく。 ○自分自身の普段の行動も大切であることに気付けるよう支援する。	(ア) ③ (イ) ②③ (ウ) ③

7. 本時の学習計画

(1) 本時の目標

- ・「みんなにやさしい暮らし」を実現するために、今の社会に必要なことを考える。

(2) 本時の展開

児童の主な学習活動	指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
○今までの学習を振り返る。 ・体にハンデのある人のことを考えた工夫があること ・高齢者の人の願い ・手話体験、点字学習で学んだことなど	・これまでの写真やプリントを用意し、児童が想起しやすいようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「みんなにやさしい暮らし」になるためにひつようなことは何かな？ </div>	
○「みんなにやさしい暮らし」を実現するために、 <u>足りないこと</u> 、 <u>続けること</u> 、 <u>大切なこと</u> に分けて考える。	・ロイロノートを使って、児童が色別に記入できるようにする。 赤・・・足りないこと 青・・・大切なこと 黄・・・続けること 【イ②】
○クラスで交流することで、今の社会に必要なことを考え、まとめる。 ○今日の学習のふりかえりを書く。	・ロイロノートを使って、分類や比較を全体で共有できるようにする。 ・「他者を思いやる心が大切である」ことに導く。 【ウ②】

